
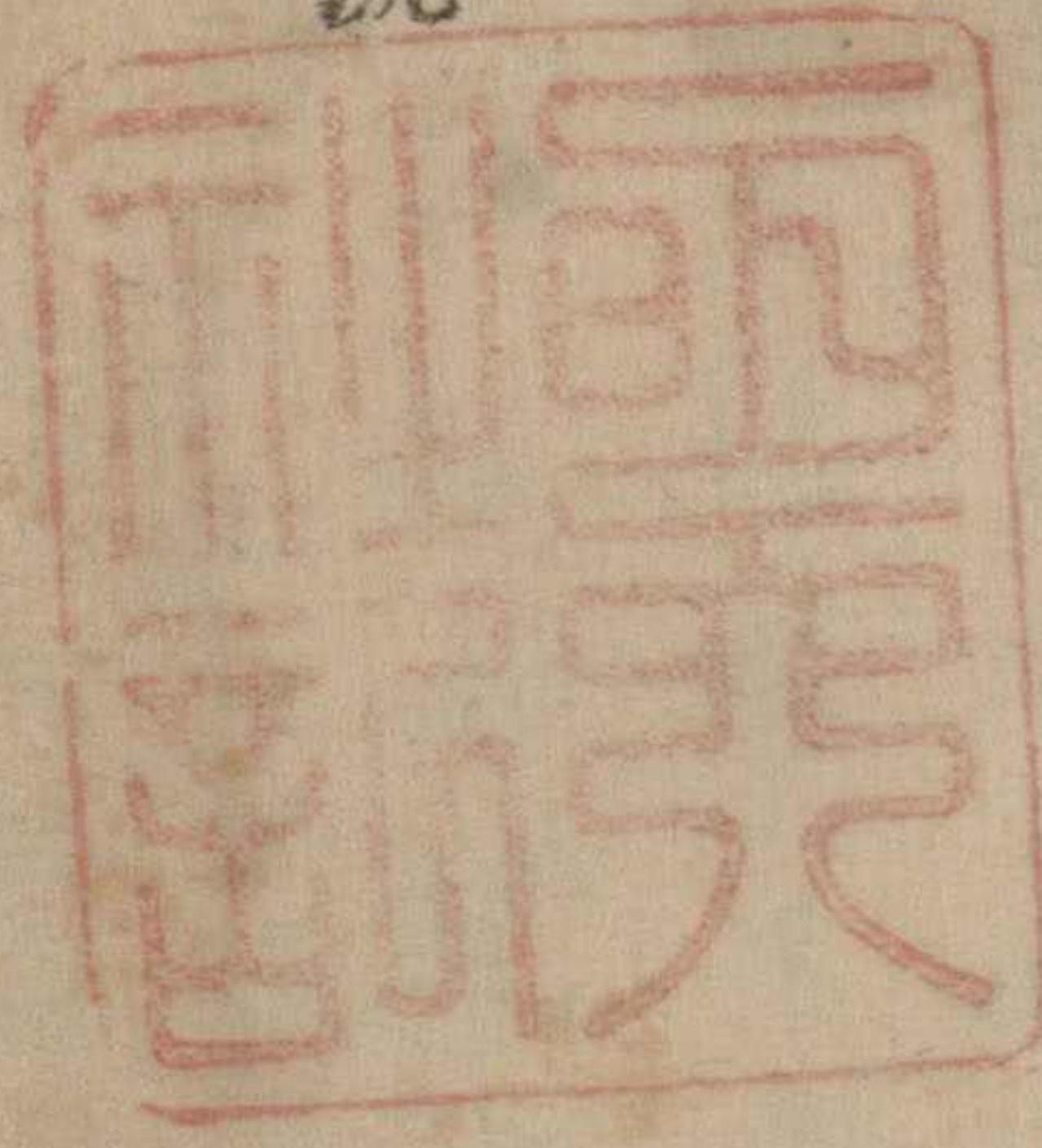



明六雜誌

第四號

- 
- 一 人民ノ自由ト土地ノ氣候ト互ニ相關スルノ論
 - 一 ブルンチユリ氏國法汎論摘譯民選議院不可立ノ論
 - 一 佛人シユルリ一氏國ノ衰微ニ赴ク徵候ヲ舉ル條目
 - 一 教門論一
 - 一 煉火石造ノ說
- 
- 

頃日吾儕盍簪シ或ハ事理ヲ論シ或ハ
異聞ヲ談シ一ハ以テ學業ヲ研磨シ一
ハ以テ精神ヲ爽快ニス其談論筆記ス
ル所積テ冊ヲ成ヌニ及ヒ之ヲ鏤行シ
以テ同好ノ士ニ頒ツ瑣々タル小冊ナ
リト雖_凡邦人ノ爲ニ智識ヲ開クノ一
助ト爲ラハ幸甚

明治甲戌二月

明六同社識

明六社雜誌第四號

人民ノ自由ト土地ノ氣候ト互ニ相關スルノ論 箕作麟祥

父母ノ其子ニ於ケル夫ノ其婦ニ於ケル皆土地ノ氣候ニ從テ自然其抑制ノ權ヲ異ニスルカ如ク政府ノ人民ニ於ケル亦自然土地ノ氣候ニ從テ互ニ其抑制ノ權ヲ異ニス蓋シ熱地ノ民ハ其筋力弱ク剛勇ノ心ニ乏シケレモ寒地ノ民ハ其心体共ニ強壯ニシテ事ニ耐ヘ物ニ忍ヒテ大事業ヲ爲スノ力アリ而シテ此差別ヲ致スモノハ唯リ甲國ト乙國トノ間ニ就テ判然知リ得可キノミニ非ス一國中ノ南部ト北部トニ就テモ亦瞭然之ヲ見ルヘシ例ヘハ「支那」北部ノ民ハ南方ノ民ヨリ更ニ剛勇ニシテ「朝鮮」ノ如キモ亦然リ是レ即チ熱地ノ民ハ怯懦ニシテ剛勇ノ氣ナキニ因リ多ク其君ニ隸從シテ其暴命ヲ遵奉スルモ寒地ノ民ハ獨リ剛勇ノ氣アリテ能ク其自由ノ權ヲ保ツコトヲ得ルト爲ス所以ナリ是レ然シナカラテ自然ノ勢ニシテ既ニ「亞墨利加」洲ニ於テモ昔時「墨是哥」

及ヒ「秘魯」ノ如キ君主獨裁國ハ常ニ赤道ニ近キ熱地ニ在リテ其小部
落ヲ爲シテ自由ヲ得タル者ハ却テ南北ノ寒地ニ居レリ

爰ニ又「亞細亞」洲ノ氣候ヲ論スルニ南ハ北緯四十度ヨリ北ハ北極ニ
至リ西ハ「烏拉」山ヨリ東ハ「太平洋」ニ達スル北地方ノ氣候甚々寒シ

就中「西伯利亞」ノ沍寒最モ酷烈ニシテ其地僅カニ少許ノ灌木雜草ヲ
生スルノミ「魯西亞」人ノ勉勵ト雖モ曾テ耕耘ノ業ヲ爲ス能ハス其土

人モ亦蠢爾タル番夷ニ過スシテ固ヨリ都會ト稱ス可キ者アルナシ
而シテ「亞細亞」ノ此地方斯ク寒冷ノ甚シキ所以ハ其土地ノ高キト山嶺

ノ南ヨリ北ニ趨クニ從ヒ次第ニ低クシテ北風ヲ遮キルナキトニ因
ルナリ然ルニ「歐羅巴」ニ於テハ「諾威」及ヒ「拉巴蘭」ノ高山北風ヲ遮

ルニ因リ極北ノ國ト雖モ其寒氣酷烈ナラス「ストックホルム」ノ如キハ
六十一度ト雖モ人能ク銀礦ヲ開キテ地ヲ耕ヤスヲ得ルナリ

此氣候ノ模様ニ因テ考フルニ「亞細亞」洲ニ於テハ所謂寒熱ノ中ニ位

スル温暖ノ地ナク乃チ「西伯利亞」「鞏韜」ノ寒地直チニ「支那」「波斯」「土耳其」ノ熱地ニ接スルナレト「歐羅巴」ニ於テハ之ニ反シテ温暖ノ地甚タ多シ而シテ「瑞典」「諾威」等ノ氣候ト「是班牙」「以太利」ノ氣候トハ固ト大ナル差ナキコアラサレト頼ニ寒地ヨリ轉シテ熱地ニ至ルノ類ニ非ス北ヨリ南ニ至ルニ從テ次第ニ温暖トナレルナリ故ニ境ヲ接スル國ニ於テハ其氣候彼我霄壤ノ差アルコトナシ是ニ因テ之ヲ見レハ「亞細亞」洲ニ於テハ寒地ノ勉強剛勇ノ民直チニ熱地ノ柔弱怠惰ナル民ニ接スルカ故ニ寒地ノ民常ニ熱地ノ民ヲ壓服シテ之ヲ奴役スルニ至ルノ勢ヲ爲スノミ然ルニ「歐羅巴」ニ於テハ氣候既ニ漸チ逐テ強ト強ト相隣シ其力畧相比敵スルヲ以テ甲國ヨリ乙國ヲ一舉シテ壓服スルコト極メテ難シ是レ即チ「亞細亞」ノ弱ニシテ其人民動モスレハ他ニ隸從シ「歐羅巴」ノ強ニシテ其人民每ニ自由ヲ得ル一大原因タリ蓋シ此說或ハ當今世人ノ通論ニ反ス可シト雖モ余ハ固ク之ヲ執ルノミ願フニ「亞細亞」

ニ於テハ古來人民自由ノ權ノ増スヲナシト雖モ「歐羅巴」ニ於テハ事体ニ因リ一時自由ノ權ノ減シタルヲアレト其權遂ニ次第ニ盛大ナルニ至レリ

昔時「希臘」ノ碩儒「アリストートル」カ云ク凡ソ「亞細亞」人ハ機智アリテ技藝ニ巧ナリト雖モ志氣ナキカ故ニ常ニ聽順シテ敢テ自由ナルヲ欲セスト

前ニ記スル所ノ者皆史乘ニ就テ以テ之ヲ証スルヲ得可ク今試ミニ之ヲ言フニ「亞細亞」ノ民ハ嘗テ互ニ壓服セラレタルヲ十三回ニ及ヒ其中十一回ハ北方ノ民南人ヲ壓服シ其中二回ハ南方ノ民北人ヲ壓服シタリ然ルニ「歐羅巴」ハ之ト異ニシテ太古「希臘」人及ヒ「非尼西」人ノ來テ此ニ植民セシ以來今ニ至ル迄大變革ト稱スヘキ者僅カニ四回ニ過キス即チ「羅馬」ノ攻奪北狄ノ移住「查理曼」ノ戰勝「諾耳曼」人ノ侵入ノ四事ノミニ限レリ但シ此四回ノ大變革ノ時ト雖モ「歐羅巴」全洲強弱ノ勢ニ

シヤールマン

ノルマン

至テハ曾テ互ニ霄壤ノ差アリシニハ非ス蓋シ「羅馬」人當時「亞細亞」ヲ
侵撃スルニハ敢テ其抗スル者ヲ見ス容易ニ之ヲ征服シタレトモ「歐羅巴」
諸國ヲ征スルニ方テハ然ラス數回苦戰ノ後辛ウシテ之ヲ壓服スルヲ
得タリ又其後北狄ノ「羅馬」ヲ亡ホセシモ容易ニアラス「查理曼」ノ戰勝
「諾耳曼」人ノ侵入モ亦頗ル困難ヲ極メタリ是レ即チ歐洲ニ於テハ古
來此國ト彼國ト強弱ノ差異常ニ甚ナキノ証ト謂フ可シ

右佛國大學士「モンテスキユウ」所著ノスピリット、チフ、ロウヌヨリ抄
譯ス尙續譯シテ次号ニ出スベシ

加藤弘之

舊參議等民選議院設立ノ論ヲ唱ヘシヨリ世ノ改革黨頻リニ之ニ左袒
シ時勢ヲ視ス人情ヲ察セス漫ニ公議輿論ノ可ナルヲ主張シ而シテ國
家治安ノ術特ニ公議輿論ヲ張ルニ優ル者ナシト爲ス故ニ左ノ文ヲ摘
譯シテ方今歐洲ノ開明ト雖モ猶或ハ公議輿論ニ戻ルコトナカル可ラサ

ル所以ヲ證ス

ブルンチユリノ著セル國法汎論ニ云大臣若シ兩院多數ノ望ヲ失フキハ
 國家ノ爲メニ甚害アリ何者形勢此ノ如クナルニ至ルキハ兩院大臣ノ
 處分ニ就キ其方法ヲ准許スルヲ欲セザルカ故ニ縱令ヒ其方法中公衆
 ノ爲メニ仁善ナルコトアルモ或ハ阻闕セラレテ遂ニ行フ能ハサルニ至
 レハナリ是故ニ大臣大ニ兩院ノ憎惡ヲ受ケテ遂ニ銷ス可ラサルニ
 至リテハ已ムヲ得ス其職ヲ罷免スルノ外他術アルナシ去レト此事
 決シテ國法ノ規律タルニハアラス既ニ各國ニ於テ唯兩院少數ノ左
 袒ヲ得タル大臣多數ノ憎惡ヲモ顧ミス猶多年ノ間自若トシテ其職
 ニ止マリシ例少カラス英國ニテハ往昔ヨリ巴力門政令〔按〕英國ニテハ巴力門ノ威
 權盛ニシテ專ラ政ノ法行ハレテ巴力門ノ威權盛強ナルコト實ニ驚ク
 令ノ實權ヲ握ルニ堪タリ蓋シ若シ他ノ立憲各國ニ於テ巴力門ノ威權此ノ如ク盛強
 ニ過ルキハ殆ト治安ニ害アルヤ必然ナリト雖モ英國ニテハ此法却

テ治安ニ益アリ故ニ大臣若シ巴力門ノ爲メニ一敗ヲ取ルコトアレハ
動モスレハ其職ヲ辭スルニ至ルコト從來ノ風習トナレリ然ルニ此國
ニ於テスラ古來二三ノ大臣ハ大ニ下院ノ憎惡ヲ受ケテ尙且ツ數年
間能ク政柄ヲ握リタリキ例ヘハ賢相 ピット 一千七百五十年ニ生レノ
其八百零六年ニ死ス
加キ則チ是レナリ蓋若シ大地各國ニテ大臣一敗ヲ取ル毎ニ輒チ其職
ヲ辭スルノ風習アルキハ國家ノ爲メニ甚タ不利ナル可シト雖モ英國
ニテハ却テ不利ナラサルハ何ソヤ英國ニテハ君主及ヒ兩院ノ信ヲ
兼得タル人傑少カラス且ツ此國ニテハ國家ノ礎石トナリテ強盛ノ威
權ヲ備フル者ハ貴族富人及ヒ識者ニシテ貴族ハ父祖ノ品行ヲ墜サ
ンチ恐レ富人ハ自己ノ利ヲ失ハンチ恐レ識者ハ其道ニ背カンコトチ
恐ル、カ爲メニ輕舉暴動ヲナシテ敢テ政府ニ抗拒セント欲スルノ意
アラザレハナリ然ルニ大地各國ノ如キハ未タ英國ノ如ク眞ノ靜寧
ヲ得ル能ハスシテ殊ニ平民ノ權甚ク強大ニ過ルチ以テ縱令ヒ大臣一旦

兩院多數ノ憎惡ヲ受ルコトアリ且敢テ之ヲ願ニス自若トシテ其職ニ止マルヲ緊要トス例ヘハガラーフビスマルクノ如キモ其初ハ數年間大ニ兩院ノ憎惡ヲ受ケタレ且敢テ之ニ屈セス自若トシテ其位ニ止マリシカ故ニ遂ニ普國方今ノ強大ヲ致シ及ヒ獨乙國ノ勢力ヲ復興スルニ至レリ但シ大臣若シ終始多數ノ憎惡ヲ受クルニ至リテハ勢ヒ復々其職ニ居ル能ハサルハ論ヲ俟タス

余嘗テ譯スル所ノ國法汎論下帙第四冊ニ此文アレ且今譯スル所ハ六十八年刊行ノ第四版ヲ以テスレ

今此文ヲ譯スルヤ決シテ公議輿論ヲ不可トスルニアラス唯時勢ヲ視ス人情ヲ察セス漫ニ公議輿論ヲ張ラントスルノ非ヲ辨セント欲スルノミ看者請フ怪シム勿レ

佛人「シュルリー」氏國ノ衰微ニ赴ク徵候ヲ舉ル

條目左ノ如シ

一 運上チ多分ニ取り立ル事

一 メ賣商買チナス事但シ穀物ノメ賣商買チ最モ害アリトス

一 交易工作及ヒ農業チ怠ラシムル事

一 運上チ取り立ルニ多ク雜費チ掛クル事

一 入ラヌ役人ノ多キ事

一 國費ノ多キ事

一 裁判ノヒマトル事并 不相當ノ取計ヒチナス事

一 怠惰ニシテ勉強セザル事

一 奢侈ナル事

一 無益ニ費ス事

一 教方亂レテ守リナキ事

一 數ク貨幣チ變ル事

一 數ク戰爭チナス事

一政事ノ勝手次第ナル事

一知識ヲ弘ムルヲ忌ミ嫌フ事

一仕損ヲ打チ續ケテ改メザル事

右等ノ類ナリ

「シユルリー」ハ千六百年間ノ人ナリ嘗テ佛國ノ宰相ト爲リ大亂ノ餘ヲ承ケ善ク其國ヲ治メタリ抑シユルリー」ノ此說ヲ發セシヨリ當時英蘭等ノ如キ皆之ニ從テ改革ヲ爲セリ今我邦人ノ此條ヲ見ルモノ知ラズ其以テ陳腐ト爲スヤ否ヤチ故ニ姑ク録シテ之ヲ我社ノ日誌ニ載ス

教門論一

西 周

教門ハ信ニ因テ立ツ者ナリ信ハ知ノ及ハサル所ニ根サス者ナリ人既ニ之ヲ知レハ其理ヤ則チ己ノ有トナル然レ得テ知ル能ハサレハ唯其知ル所ヲ推シテ以テ知ラサル所ヲ信スル耳故ニ其理タル亦己カ有ニ非ス然ラハ則チ匹夫匹婦ノ木石蟲獸ヲ神トシ信スルモ高明博識ノ天

チ信シ理チ信シ上帝チ信スルモ皆知ラスシテ信スル者ナリ是差等アリト雖_レ其揆ハ則チ同一ナリ而テ所謂信ナル者ハ人々ノ心裏ニ存スル者ナリ故ニ勇者モ力チ以テ他人ノ信チ奪フチ得ス智者モ辯チ以テ他人ニ信チ強ユルチ得ス故ニ政府ノ教門ニ於ケル亦其人々ノ信スル所ニ任スヘクシテ之チシテ必ス此チ信セシメテ必ス彼チ信セサラシムルコト能ハス如何トナレハ所謂政府ナル者亦人ニ非ルナシ既ニ人タレハ則チ高明博識ニシテ愚夫愚婦ニ超過スルコト萬々ナリト雖_レ亦知ラサル所チ信スル者ナレハナリ己既ニ知ラス而テ人チシテ己カ信スル所チ信セシメムト欲セハ其理ナキコト明カナリ夫既ニ其理ナケレハ其權ナキ亦明カナリ或曰ク子ノ言然リ然リト雖_レ我カ神チ棄テ、他人ノ神チ信ス是本末チ失スルナリ曰ク信ニ本末ナシ唯真トスル者チ信スヘキナリソレ匹夫匹婦ノ木石蟲獸チ信スルモ其真タルチ信ス苟モ其偽タルヲ知レハ即チ信斯ニ止ム故ニ信ニ本末ナシ正變ナシ唯其真

トスル所ヲ信スルノミ亦何ソ本末正變ヲ以テ人ノ信ヲ奪フヘケムヤ
或曰ク子ノ言然リ然ルト雖_レ其國体ト相關涉スル者之ヲ如何子ノ言
ノ如ク政府既ニ教門ヲ是非スルノ權ナシトシ而テ人民ノ所好ニ任サ
ハ則チ因テ以テ國体ヲ害スルニ至ラム曰クソレ政治ノ權ハ教門ノ道
ト素ヨリ其本ヲ同ウセス故ニ人民政府ノ法度ニ從フハ即チ其方_サニ生
ル、ノ日ニ始マリ其方ニ死スルノ日ニ終ル其心ノ存スル所ノ如何ヲ
問ハスシテ其法度ニ服スル如何ヲ問フノミ其主トスル所人民ヲ聚メ
國ヲ成シ不正ヲシテ正ヲ犯ス_{コト}ヲ得サラシメ以テ其治安ヲ保ス是政
府ノ義務ニシテ亦其權ノ在ル所ナリ亦何ソ其他ヲ問フニ暇アラム若
夫教門ノ道ノ如キハ正_サニ之ト相反ス其關スル所現在ノ世ニ限ラス顧
ミテ過去ニ至リ望テ未來ニ及フ其法度ニ服スルノ如何ヲ論セ_ル其心
裏ニ存スルノ如何ヲ問フノミ其主トスル所歸依スル所ノ人ヲ聚メ心
裏ノ善惡可否ヲ問ヒ善ニ服シ惡ヲ改メシメ以テ死後ノ苦樂ヲ判ス亦

何ソ現世ニ在テ政令法律ノ外ニ出ルコトヲ得ムヤ故ニ政治ノ教門トハ
全然其本ヲ別ニスル者ナリ亦何ソ相關涉シテ教門ノ爲ニシテ政治其
害ヲ受クルコトアラムヤ然レ世ニ神教政治ト云フ者アリ古猶太國古埃
及國古天竺國今ノ西藏國ノ如キ是ナリ是鴻蒙ノ世人傑政教ノ權ヲ一
手ニ握リ以テ教ヘテ以テ治ムルノ故意ニシテ古ニ在テハ其勢然ラサ
ル得サルコトアリト雖レ後世人智盛ニ闢クルニ及ンテハ人民敢テ其虛
妄ヲ信セス而テ故套遂ニ廢スルニ至ル亦勢ナリ故ニ政府ニシテ教門
ノ道ヲ以テ其政治ノ權ニ參スル者其人民西藏ノ如ク愚ニシテ蚩々タ
ラハ則チ已ム苟モ人民ノ中一タヒ其虛妄ヲ辨知スルアラハ其國必ス
顛沒踵ヲ廻ラスニ及ハス昔シ一蠻王國アリ其王獨リ日月ノ蝕ヲ推步
スルヲ知リ世々傳ヘテ以テ王室ノ秘トス是ヲ以テ人民亦敬服シテ王
ノ威令大ニ行ハル其後人民化ニ進ミ漸ク蝕ノ推步シテ知ルヘキヲ知
リ其王家遂ニ其權ヲ失フニ至ルソレ其恃ムヘキ者ヲ恃マスシテ虛妄

テチカラシイ

ノ顯レサラムヲ恃ム幾ハクカ夫亡且滅ニ至ラサル者アラムヤ故ニ政
府ノ苟モカノ神教政治ノ體ヲ存スル者ハ宜シク早ニ其政教相連絡ス
ルノ脉ヲ絶テ教門ノ害ヲシテ政治ノ害ヲナサ、ラシムルニ在ルノミ

煉火石造ノ説

西 周

余曾テ歐洲ニ遊テ煉火石造ノ家屋ヲ見ル其高キヤ五層六層其廣キヤ
二町三町而テ堅牢固結搖カス可ラス撓マス可ラス嶄然タル一片ノ石
壁四合スル者ナリ近日我^カ新橋以北ノ街區亦此法ヲ用フ其堅牢固結彼
ニ如^カサル者アリト雖亦觀ルヘキアリ嗚呼何ソ匠氏ノ巧ニシテ獨リ柄
政者ノ是ニ類セサルヤソレ火石ハ其質堅緻ニシテ其形方正ナル者ナ
リ火石能堅緻能方正撓マス曲ラス而テ匠氏能^ク之ヲ用ヒ正^サニ其堅緻ト
方正トヲ利シ累々層々以テ其高大ヲ致ス今苟モ匠氏ノ石ヲ製スル其
質堅緻ナラス其形方正ナラス專ラカノ石灰ノ力ヲ恃ミ強壓力逼シテ
以テ其累々層々ヲナサムト欲セハ其石盪磨跳躓正角漫磨シ糜稜消毀

シ變シテ將ニ團々ナル者トナラムトス則チ匠氏亦何チ恃ミ以テカノ
高堂大厦ヲ構スルヲ望マムヤ今有司ニシテ其下ニ遇スル強壓力逼以
テ各個人々ノ權分ヲ虧損ス則チ人々己カ權分ヲ存保スルコト能ハス
遂ニ變シテ圓轉流活以テ俗ヲナスニ至ラムトス苟モ圓轉流活一タヒ
俗ヲナスニ至レハ間亦剛毅強直ナル者アリト雖亦碌々世ト相推移セ
サルヲ得ス猶數十方正石ノカノ團々ナル者ト相盪磨スルカ如シ幾ハ
クカソレ其廉角ヲ存スルヲ得ムヤ况ヤ有司ノ人ヲ遇スル其權分ヲ虧
損シ且姑ク我カ意ニ隨テ汝カ方正ヲ枉ケヨト云ハ、猶匠氏ノ石ノ方正
ヲ利セス擅マ、ニ槌斷斧斫シテ以テ其用ニ適セムトスルカ如シ亦焉
ソ其槌斷斧斫ノ處異日壞崩滅裂ノ地タルニ非サルヲ知ラムヤソレ堅
緻方正ハ火石ノ性ナリ人民ノ權分ヲ守ルハ亦人ノ性ナリ今苟モ一旦
其性ヲ變シ石ヲシテ團々ナラシメ人ヲシテ圓活ナラシメハ匠氏其巧
ヲ盡シ柄政者其能ヲ窮ムト雖亦將ニ其力ヲ施スノ地亡カラムトス今

夫數丈ノ壁間一個ノ火石脆疎ニシテ**宿**脱スレハ餘石ノ堅緻ナル者亦從テ陷ル則チ支離滅裂亦壁ノ一面ニ及ハムトス故ニ匠氏ハ一石ノ質ヲ輕ンセス柄政者ハ匹夫ノ權ヲ慢ラス以テ能ク其功ヲ成ス况ヤ本邦ノ如キ火石素ヨリ脆疎ニシテ人民ノ權分殊ニ薄弱ナルチヤ維新ノ初制度簡疎人々頗ル振フノ氣アリ今日ニ至リ文恬武熙萎靡復風ヲ成ス况ヤ百度更張シ節目頗ル備ハル從テ強壓力逼ノ蔽生セサルチ得ス煉火石造ノ説ヲ作ル

稟 白

一代價ハ每号不同に付豫め決定仕兼候得共前金にて發兌號方先二十冊分御引受ハ一割引五十冊分ハ一割半百冊分ハ二割引にて差上過不足ハ追て算當の上可申上候

一府下にて御望の方ハ町所名前御投書次第發兌毎に配達可仕遠國ハ府下にて御引受の御方より前金郵便税共受取不申内ハ遞送不仕候

明治七年三月

東京藥研堀町
賣捌所 報 知 社

東京日本橋釘店
取次所 和泉屋壯造

